

「自分（学校・教職員・児童性）を高める力」の向上を目指して

R5年度 第13号
津山教育事務所 3月

年度末を迎え、教育活動の「まとめ」の時期になりました。「子ども達の成長」が感じられているでしょうか？十分な手応えを感じておられる校長先生、なかなか思ったようにはいかないと思われる校長先生というおられるのではないかと思います。「結果」につながるには少し時間がかかるかもしれません。「取組」については、しっかり検証し、次の年度につなげていきましょう。

4月から新しい学校でのスタートが始まる校長先生もおられます。まとめと同時に、次校への準備も少しずつ始めなければいけませんね。

子どもたちの
笑顔・元気のために



新しい学校でスタートを切られる校長先生へ



お疲れさまでした



転出・退任される校長先生へ

新しい学校で、校長として最初にするべきことは？

①子どもの実態、学校の課題を把握しましょう。

学校評価、アンケート、学調結果、Q-U、体力テストの結果、教頭・主任等への聞き取り、子どもの様子を実際に見る等により。

②前任者作成の学校経営方針、APの理解を深めましょう

「昨年度何ができて、何ができていないのか」「めざす子ども像は適切で、明確か」「有効な取組設定ができていないか」「検証は可能か」等の視点で。

③ビジョン実現の道筋を計画しましょう。

一歩一歩、確実にステップアップできるよう中期・長期目標をもちましょう。

④職員会議で明確なビジョンを示しましょう。

ビジョンを示し、教職員の心を揃えていきましょう。

⑤作成済みの経営方針・APに校長先生のビジョンを加え、修正しましょう。

必ず校長先生自身の思いやビジョンを加えて学校経営を行いきましょう。



①R6のAPの作成と取組の共有をしっかりと行いましょう。

「重点目標」は何か、そのためにどんな「重点取組」をおこなうのか、全職員が理解できるようにしましょう。

②APは年度途中に変更もあることを職員へ伝えておきましょう。

APは始めから完全なものが出来上がることはありません。児童の実態の変化や取組の進捗状況によって、随時見直すことが必要になってきます。また、新しい校長先生がビジョンを基につけ加えや修正を行うことを必ず職員に伝えておきましょう。管理職が教職員と課題を共有しながら、柔軟に対応していく体制が必要です。

AP訪問第2フェーズ・・・R6年度より、AP訪問は第2フェーズに入ります。学校がより「主体的」かつ「組織的」に取り組むことが求められます。

【主な変更点】

①項目名を「知」「徳」「体」に限定せず、学校が主体的に設定します。（市町村教委の重点等も含まれます）

②重点取組に授業に関する「手立て」を明記します。

③協議題を学校が主体的できるようにします。

④取組の中心を担う「研究主任等」に同席をしてもらいます。

実効性を高めるためには、『成果と課題を次の改善につなげる授業研究会の実施』と『校内研修に取組の実践交流を位置付ける』ことが大切です。研究主任の推進力が期待されます。

⑤「振り返り」を協議の中で実施し、次への動きにつなげます。

APを学校づくりの中心として、学校力を高めていきましょう。

※作成についてお困りのことがありましたら、遠慮なく**学校経営アドバイザー**にご相談ください。

連絡先：津山教育事務所義務教育支援課学力向上班
TEL (0868) 24-8705